



TITLE:

観測案内(2月)

AUTHOR(S):

木邊

CITATION:

木邊. 観測案内(2月). 天界 1937, 17(190): 165-166

ISSUE DATE:

1937-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167405>

RIGHT:

観 測 案 内 (2月)

木 邊 生

2月 早や月の始めに立春を迎えるとは云へ、地表の春を探すには、未だ並々ならぬ苦心が要る。南海には、梅の香漸く馥郁と漂ひ初めても、菅公の“東風吹かば”の歎きは深い。無論彼氏“東方に高氣壓の分流するは、夫れ春の徴なり”。としたか否かは知らないが…… さはあれ、東天にはレグルス既に高く、春の瞬きを見せて居る。

天候 シーイング 既に日射が少し増加し始めるので、大陸高氣壓が平均して稍弱まる。日本海を荒した大陸旋風も、前月程には好條件に發達しなくなり、月の半ば過ぎると、稍、鋭鋒が鈍る。反對に内地一般には1月よりも雲量が増し、時には本土の眞上を通過する低氣壓が、去年の節分の夜の様に、帝都の足を奪ふ白鬼に化けたりする。此んなのは例外だとしても、京都や大阪では2月の方が雪がよく積る事がある。然し月末には、滿蒙の天地から、分遣高氣壓が、ユルユルと東方に鹿島立ち、菅公たらずも、世の人々に“春遠からじ”の慰安を與へ、我々も、久方振りに少し落ち付いたシーイングの餘恵に浴する。

金星 月初めに、赤緯が十に變り、益々夕空高く、視直徑も23.''1—31.''9迄増加する。5日には東方最大離隔に達して、半月型を見るのに好適である。白晝に見るのも又面白い。もう位置さへ知れば、日中に容易に見える。

火星 勿論未だ曉天には居るが、視直徑も7.''0—8.''8と大きくなり、地球で云へば7月初旬に當る。10cm以上の望遠鏡では、可なり縮少した北極冠に氣付くだらう。

土星 月末の輪の再出現が、太陽に近くて見られないのが残念である。

恒星界 冬の王座は、日没と共に南中し、“寒さ”とは切つても切れない其の配列を凝らして居る。小望遠鏡には、案外張合がない。プレセペや、シリウスの南にあるM 41も、さ程美しくない星團である。人氣物は、垣星の首座を占める“シリウス”と“カノプス”だらう。後者の漢名“壽老人”と

云へば、昨年の日食に來たチエツコのスロ 1 カ博士が、誰に附けて貰つたのか、“壽老化”(スローカ)のゴム判を押して喜んで居た事が思ひ浮ぶ。チエツコからでは、爪立ちしてもカノプスは見えない。赤緯は $-52^{\circ}38'$ (1900年)であるから、地平線に近い爲に少々は大氣の屈折で浮び上つても、本洲からでは、僅々2—3度角内外である。然し南に山のない土地で、清澄な日に、赤く弱められたカノプスを見付けるのは、星好きに許された2月の楽しみの一つである。

超巨星 カノプスは、單に見掛上明るいだけではなく、實に素晴らしい巨星である。例によつて素性調べを開始すると。

實現等級	$-0.86m$ (ハーバード・システムにて)
スペクトル	cFO
固有運動	$0.''022$
視 差	$0.''005 \pm 0.''010$
絶對等級	$-7.4m$ (太陽の80000倍)

最後の行の値は、視差の不正確さに左右されるから、或る程度の誤はあらうが、少くとも-5等級即ち太陽の10000倍も明る事は間違ひない。元來、巨星と矮星とで、例へば、カペラ gGO, 太陽 dGO と云ふ様に、同じ型でも、幾分スペクトルの様子が變つて居る。其れが FO より早期の星になると g, d が付けられない。所がカノプスは cFO, リゲル cB8, デネブ cA2, アンタレス cMO とスペクトル型には構ひなしに變手古な符號が付く。即ち此等の數星は超巨星なのである。巨星の性質が甚だ強い爲めに、B, A, F, でも一見特徴を持つたスペクトルを此等は示す、實はハーバードで、恒星表を作る時、この特徴を持つたものに符號を付けて置いた所、其後になつて其等が全部超巨星だと知れたのである。然し、此等超巨星は、其の質量が大きい以上に(カノプスは太陽の100倍位と推算)輻射が大きく、小質量星よりも遙かに短命の星(今の状態を續ける限り)だと現在の理論は教へて居る。“世の中を太く短かく”と云ふ御手合だ。

昨年二月の記録	平均雲量	6 ^h	6.8	21 ^h	6.4
	平均気温	6 ^h	$-1.9^{\circ}C$	21 ^h	$-0.4^{\circ}C$
太陽黒點相對數一日平均	95.1	觀測日數	18日		